オックスフォード大学
REES センター

里親養育を受けているティーンエイジャー

里親と里親を支援する人達のためのハンドブック

John Coleman,Jane Vellacott、Graham Solari, Maggie Solari, Nikki Luke, ,Judy Sebba

このハンドブックは、セミナーシリーズ「Teenagers in Foster Care」（里親養育下のティーンエイジャー）より、Economic and Social Research Council Grant（経済社会研究会議）助成金番号ES / L000717 / 1およびCore Assets Group(コアアセットグループ)の支援を受けて作成されました。

著者について

John Coleman氏：臨床心理士、オックスフォード大学教育学部の上級研究員（2006年から2015年）
Jane Vellacott氏、Graham Solari氏、Maggie Solari氏：ティーンエイジャーの経験豊かな里親
Nikki Luke博士：オックスフォード大学教育学部リース里親養育・教育研究センター（Rees Center for Research in Fostering and Education）上級研究員
Judy Sebba教授：オックスフォード大学教育学部リース里親養育・教育研究センター（Rees Center for Research in Fostering and Education）所長

画像クレジット

4、6、10、14、24ページ：pixabay
16ページ、18ページ、26ページ、31ページ：Unsplash
20ページ：StockSnap

謝辞

Estella Abraham 氏、Paul Adams 氏、Richard Brandford 氏、Ayyab Brice 氏、Jason Brown 教授、Jim Cockburn 氏、Jackie Edwards 氏、Sara McLean 博士、Sally Melbourne 氏、Eleanor Ott 博士、Karen Winter 博士から、草稿にあたり御意見をいただきましたことに感謝申し上げます。また、里親養育者である Helen Holgate 博士には、御意見をいただき、御支援いただきましたことを、大変感謝申し上げます。本論文における最終的な文責は著者にあります。

オックスフォード大学教育学部のリース里親養育・教育研究センター（Rees Center for Research in Fostering and Education）は、国際的な児童サービスプロバイダーであるコア・アセット・グループ（Core Assets Group）とその他の資金提供者の支援を受けています。このハンドブックの元となったセミナーシリーズは、Economic and Social Research Council の助成を受けています。

2016 年 10 月
© Rees Centre/University of Oxford/University of Bedfordshire/University of GothenburgISBN: 978-0-9934738-2-1
eISBN978-0-9934738-3-8

本報告書は早稲田大学社会的養育研究所がオックスフォード大学 Judy Sebba 教授から許可を得て、原著 Teenagers in Foster Care －A handbook for foster carers and those that support them－（2016）を日本語訳したものです。
日本語訳作成をご快諾いただいた Judy Sebba 教授、監訳チームで本論文をご担当いただいた国立成育医療研究センターの引土達雄氏、そして本事業に助成していただいた日本財団に心より感謝申し上げます。

早稲田大学社会的養育研究所
所長　上鹿渡和宏

目次

01 はじめに.....5

02 措置の開始.....6

03 思春期の発達.....8

04 アタッチメントと里親養育の経験.....10

05 効果的な里親養育 -STAGE フレームワーク.....12

06 関係を築いていくこと.....14

07 構造と境界、ルールと罰則.....16

08 危険を冒すこと.....18

09 里親養育におけるセクシャリティと性的健康.....20

10 期待と願望.....22

11 コーディネーション（調整すること） – 若者のために最善を尽くす.....24

12 移り住むこと.....26

参考資料.....28

01 はじめに

「里親養育の中心にいるあなたは、里親として、あなたに預けられた若者とともに旅をし、感覚とプロフェッショナリズムの両方を携え、進む道を導く、日常的に過ごしながらも里子にとってはこれまでに出会ったことのない人です。里親養育を受けるようになった理由が何であれ、措置されてあなたの所に来た若者は、多くの場合、発達や行動に影響を与える悲しく、トラウマとなる、困難な経験をしています。若者はそれぞれ個性があり、あなたの役割は彼らが人生において生産的に前に進めるよう手助けすることです。若者の実親家族だけでなく、あなた自身の実親家族も含め、関係者全員が継続的に学ぶことの必要性について軽視しないでください。温かく励まし、毅然とした態度で公正に対応することで、若者が人生と人生が与えてくれるもの全てを掴む力を与えることができるのです。それは実りのある旅となります。」

里親　Jane Vellacott

このハンドブックは、里親と、里親をサポートする人達（家族、スーパーヴァイジングソーシャルワーカー、児童ソーシャルワーカー、教師、里親養育提供に関わる人達、セラピスト等）を対象としています。このハンドブックはティーンエイジャー（13 歳～19 歳の子）の里親養育に携わる人達が検討すべき情報を提供しており、ティーンエイジャーを養育しようとする人のための里親養育トレーニングの一環として、またはティーンエイジャーの新たな措置が始まる時点で提供されることが推奨されます。

2013 年に、オックスフォード大学のリースセンターおよび社会政策介入部門（Rees Centre and the Department of Social Policy and Intervention at Oxford University）は、ベッドフォードシャー大学とスウェーデンのイェーテボリ大学の社会福祉学部とともに、ESRC からの助成金を得て、「里親養育を受けているティーンエイジャー」と題する一連のセミナーを開催しました。2014 年初旬から 2015 年夏にかけて、里親養育におけるティーンエイジャーの若者との関係、ティーンエイジャーの性とリスク、亡命希望の子ども達、少年司法、里親のもとを去った後のケア等をテーマに６つのセミナーが開催されました。

学生や研究者だけでなく、里親、若者、ソーシャルワーカー、慈善団体や地方自治体の管理者もイベントに参加しました。このようにして、セミナーはこれらのトピックに関係する人達に深く関わってもらうことができました。その結果、議論はとても活発で有益なものとなりました。
セミナーでは調査による知見が示され、それがハンドブックに反映されています。但し、このハンドブックは、調査の知見の報告ではなく、里親にとって重要なポイントをまとめたものです。このハンドブックに掲載されている情報は、全て調査に基づいています。各章で挙げた「議論のポイント」は、里親が自分自身を振り返るために、あるいはソーシャルワーカーが里親との話し合いの際に使用するために用意されたものです。このハンドブックでは、里親が養育しているティーンエイジャーとの関係を築く上で参考になるよう、できる限り詳細に記載しました。
本セミナーの詳細は、Rees Centre for Research in Fostering and Education のウェブサイト http://reescentre.education.ox.ac.uk/research/ teenagers-in-foster-care/に掲載されています。

02　措置の開始

全てのティーンエイジャーにとって、家族関係は傷つきやすいものとなる可能性があります。社会的養護のもとで暮らす子ども達にとって、ティーンエイジャーの時期は里親家族との関係が特に難しい時期です。若者が里親に措置されるまでの経路や方法は様々であり、そのことにより若者は各々ストレスや不確実性を感じます。若者の中には安全な場所にいることで安心する人もいれば、里親委託の不調が理由であったり、またはその他のストレスに満ちた経験が理由でやってきたりした人もいるでしょう。このような状況の若者は、怒って憤慨し、苦悩しているように見えるかもしれません。これは里親にとって特に困難なことであり、このような状況では、関わる大人の側にかなりのレジリエンスが求められます。

里親養育を受けるに至る亡命希望の子ども達は、再定住に向けた旅の途中で、困難な経験や様々な圧力を乗り越えなければならないことになるでしょう。彼らの背景には、暴力、虐待、家族や友人との離別、大規模な退去等の経験があるかもしれません。移民のプロセスにおいて、相反する宗教、文化、言語に求められる要求に対応しなければならなくなり、トラウマになるような経験について話さなければならないかもしれません。

里親に措置されている理由が何であれ、全てのティーンエイジャーにとって重要なことは、将来についての不確実性です。安全な場所を求める子ども達は、見知らぬ国でどんな将来が待っているのかわからないでしょう。委託の不調やその他の理由で里親の所に来る子ども達にとっても、この家族と一緒に暮らせるのだろうかと不安を感じることでしょう。亡命希望の子ども達の中には、過去の経験から、安定性に欠け、大人の世界を信用できず、長い間失望してきた子もいるでしょう。

これらの様々な背景要因は、新しい里親の所に来て最初の数か月の若者の行動に大きな影響を及ぼします。里親に措置されてきた子どもは、多くの場合、ある程度不信感、不安定さ、無口なところを示します。そのことで、子どもに関わる大人の生活は大変なものになってきます。また、ひどくネガティブな体験の影響が小さなものになるには、長い時間がかかり、あなたと一緒に暮らしている間には、そうならない可能性があることを知っておくことも重要です。

里親は、数週間後には若者が落ち着き、里親に措置されたことを受け入れてくれると期待するかもしれませんが、そのようなことはめったに起こりません。特にこの措置が激動だった期間の後であったり、また、かつて重要だった関係が壊れていくことを経験した後では、新しい家庭環境を受け入れるのに、思春期の子は幼い子よりもはるかに時間がかかるかもしれません。これに対処するためには、里親は失望や拒絶を感じないように、自分自身の期待を扱っていく必要があります。措置を安定させ、全ての関係者の安全を確保するためには、内省し、スパービジョンを受けることやフォスタリング機関の支援が不可欠です。

重要なヒント

一歩下がって–若者の立場になって考えてみましょう。
変化に適応することは、誰にとっても時間がかかることですし、若者はこれまでに何度も引っ越したり、人に干渉されたりしてきたかもしれないことを心にとめておきましょう。
年齢や発達の段階を考えましょう –年齢によって行うべきアプローチの仕方が異なります。
信頼という言葉を大切にしてください。新たに知り合う人と「信頼」を築くにはどうしたら良いでしょうか。
辛抱強くいきましょう–家族はそれぞれ異なり、あなたの家族も若者の実親家族とは大きく異なるでしょう。現在重要となっている大事な問題は、数週間後もそうでしょうか？
あなたが提供する家庭や歓迎したことに、若者が感謝してくれるのを期待するのはやめましょう。–彼らにとっては気が遠くなるほど大変なことなのです。
亡命希望の子ども達には、なじみのある食べ物を用意し、母国語で歓迎の意を示し（例：サインすること、辞書があること、子どもと同国の人との交流）、穏やかでリラックスした、押しつけがましくない態度をとっていくことが良いでしょう。

議論のポイント

1. 子ども達が措置に至るまでの多くの様々な経路を考えてみましょう。あなたが里親として受け入れるティーンエイジャー達が、どのような経緯で措置に至ったのかを比較してみましょう。どのような違いがあり、それらをどのように扱っていけば良いでしょうか？
2. 里親に措置された若者達の主なニーズはどのようなものでしょうか？どのようにしたら、家族との日常生活は、ニーズに合ったものになるでしょうか？
3. 大人であるあなたが、もしも見知らぬ家庭に置かれたとしたら…どんな気持ちになるでしょうか？あなたは何に圧倒されるでしょうか？あなたはどのように扱われたいでしょうか？あなたと一緒に住むようになるティーンエイジャーに対して、どのようにしたらこれらのことを意識していくことができるでしょうか？
4. 多くの若者は複数の措置を経験しています。それぞれの養育を受けるための移動やエピソードをトラウマ体験として考えてみてください。トラウマ体験を和らげるためにはどうすれば良いでしょうか？

03 思春期の発達

里親は、委託された若者の個々の経験を理解することが不可欠ですが、同時に、思春期の発達についても知っておくことも必要です。ティーンエイジャーの時期というのは、ライフステージの中でも独特な時期です。思春期に伴う行動は、大人にとっては不可解でもあり、対応の難しいものです。知っておくことで、大人がこれらの行動を理解しやすくなるこの時期の特徴がいくつかあります。

1つ目に、ティーンエイジャーの時期は、移行期と捉えることです。移行期の重要な特徴は、自分がどちらであるのか、すなわち、ティーンエイジャーが大人であるか、まだ子どもなのかということが、不安定であるということです。全てのティーンエイジャーの内面には、子どもと大人の両方がいると考えると良いでしょう。このことが、一貫性のない行動の一部を説明するのに役立つ場合があります。里親養育を受けている若者の場合、過去の経験の影響で、この行動が更に一貫性のないものになっている可能性があることが調査では示唆されています。

ある里親はこう述べています。
「ある日は傷つきやすく子どもっぽくなりがちで、別の日には自信を持って自己主張します。振り子が一方から他方へ揺れるのです。ひどく混乱していて、対応が難しい場合もあります。」

2つ目に認識すべきことは、思春期の身体の変化による影響です。全てのティーンエイジャーにとって、思春期は２～３年続き、女の子は男の子よりも平均18ヶ月早く成熟します。しかし、個人差は大きく、同じように思春期を迎える若者は二人といません。この時期にはホルモンバランスが著しく変化し、不機嫌になりやすく、感情的な行動を取ることが多いです。思春期は性的成熟だけに関わるものではありません。体は様々な点で変化していきますが、このプロセスは一部の若者にとってストレスになる可能性があります。

このことは、その人の発達が早いか、あるいは、遅いかのいずれかの場合に特に当てはまります（通常、同年齢集団の平均値よりも３年早いまたは３年遅いと定義されます)。ティーンエイジャーは皆、同世代の人達と歩調を合わせ、他の人と同じように見えることを望んでいます。ですが、発達が早い人や遅い人は、自分がずれている、つまり他の人と違うという感覚を経験することがあります。その結果、自分の体に対する不満の感情につながり、また、アイデンティティの形成にあたり困難を抱える可能性があります。このことは、家族のアイデンティティがはっきりしない状況で、社会的養護のもとで暮らしている若者の場合、更に複雑になることが調査で示されています。

３つ目に挙げられることは、この時点で脳に生じる変化です。検査技術の進歩により、近年、脳の発達について多くのことがわかってきました。思春期の脳には、最初の３年間を除いて、人生の他のどの時期よりも多くの変化があることがわかっています。その結果、記憶力の向上、言語や語彙力の向上、抽象的な思考力の向上等、新たな能力が発達していきます。ただし、これは多くの調整が必要であることを意味します。

脳の変化が落ち着くには長い時間がかかり、安定するのはおそらく20代半ばになってからだということがわかっています。このような変化に適応する上で、若者には課題があります。例えば、感情をコントロールするのが難しい時期であり、若者が短期的な報酬に特に影響を受けやすい時期なのです。計画を立てたり、先のことを考えたりするのが難しい場合もあります。その結果、危険を冒すような行動をとってしまうことがありますが、このような行動は里親養育を受けているティーンエイジャーに多いという調査結果があります。

備考：
セクシャリティと性的健康については、セクション９で取り上げています。

重要なヒント
思春期は、体や脳が大きく変化する時期であることを覚えておきましょう。
これらの変化は、社会的養護のもとで暮らすことに伴う他のあらゆる変化に加えて起こります。
思春期は不安定な時期であり、変化に適応しなければならない時期であることを心にとめておいてください。
アイデンティティが、この時期の重要な課題となります。アイデンティティの形成過程において、大人は大きな役割を果たすことができます。

議論のポイント
1. この時期に脳が大きく変化した場合、それが社会的養護のもとで暮らす若者の行動にどのような影響を与えると思いますか？
2. アイデンティティの形成に重要な時期にあるティーンエイジャーのために、大人ができることの中で、どんなことが支援として役に立つでしょうか？

04 アタッチメントと里親養育の経験

アタッチメントとは、時間と場所が変わっても、人と人とを結びつける、深くて持続的な情著的絆のことで、若者の情緒的および行動的発達の中心と考えられています。里親に措置され養育を受ける若者が、里親との間に新たなアタッチメントをどの程度築くことができるかには、様々な要因が影響します。その中でも２つの重要な要因があり、１つ目は里親養育者に措置された時の子どもや若者の年齢であり、２つ目は早期のアタッチメント対象の存在とその重要さが挙げられます。

1 つ目の年齢についてですが、ほとんどの調査では、全てのティーンエイジャーが、思春期に新たな意味のあるアタッチメントを形成することが可能であることを示しています。しかし、措置された時の子どもの年齢が低ければ低いほど、新たなアタッチメントが形成される可能性が高くなります。対照的に、ティーンエイジャーの年齢が高ければ高いほど、里親へのアタッチメントを形成するのは難しくなります。これは、アタッチメント形成が起こり得ないということではありません。アタッチメント形成は可能ですが、ティーンエイジャーの年齢が高いほど、妨げとなることが多くなる可能性があるということです。

２つ目の重要な要因は、その若者の人生早期に重要な役割を果たしたアタッチメントの対象者達がどこにいるのか、ということになるでしょう。これらの人達は、実親、その他の重要な家族、あるいは以前の措置で関わった大人の人かもしれません。里親は、若者がそのような関係を維持できるようにするために重要な役割を担っています。彼らは、子ども達それぞれの歴史の一部であり、子ども時代に中心的な役割を果たしていくことでしょう。里親がこのようなアタッチメントを理解し、大事にすればするほど、若者は新しい場所を信用して暮らしやすくなります。

これは、愛着の種類は１つではないということを意味します。愛着には様々なタイプがあり、10 代の若者が複数の人物に愛着を持つことは十分に可能です。ティーンエイジャーの時期は、実親ではなくても子どもにとって重要な大人が、様々な役割を果たすことができます。彼らは代弁者であり、支援者であり、困ったときに頼る人であり、ガイドであり、メンターでもあります。但し、思春期のアタッチメントには様々な形があり、新しいアタッチメントの対象となる人は、実親に取って代わるものではありません。このことが意味しているのは、実親との関係が複雑で全てのことがポジティブな訳ではない中で、里親とのアタッチメントが形成されている場合、一部の若者は罪悪感に苛まれていたり、不誠実さを感じたりしており、里親は子ども達がそれらに対処するのを手助けする必要があるかもしれないということです。

思春期におけるアタッチメントの形成には、大人と若者の間の信頼関係の構築が必要です。しかし、若者の過去の経験から、これを成し遂げるのは難しいことです。ティーンエイジャーが大人に近づきすぎると、それはとても怖くなることがあるかもしれません。再び失望させられるのではないかという恐怖や、早期の関係に関わる痛みに圧倒されてしまう可能性があるのです。そのことにより、どんなアタッチメントも維持できなくなってしまいます。里親は、ティーンエイジャーの養育に携わる際に避けられないジェットコースターのような状況に対処するためのトレーニングと継続的な支援が必要となります。

重要なヒント
若者達の中には、過去の経験から新しくアタッチメントを築くことがほとんどできない場合もあります。
思春期に新しいアタッチメントを築くには、時間がかかります。
若者の中には、既に人生において重要な大人がいて、親密なアタッチメントを望まず、必要としない人達もいます。
思春期のアタッチメントには様々な形があります。
思春期の子ども達が、同世代の仲間に強く同一視することは珍しいことではありませんが、これは一時的な、一つのアタッチメントの形です。
大人を遠ざけたり、距離を置いたりすることは、更に傷つくことから身を守るために必要な手段なのかもしれません。
若者の年齢も重要です。年齢が上のティーンエイジャーの中には、親密なアタッチメントの関係を望まない子どももいますが、年齢的に幼い子ども達の中にも、親密なアタッチメントを避ける子ども達がいます。
アタッチメントが機能するかどうかは数多くの要因で決まります。– 初期のアタッチメントの役割と重要性を軽視しないようにしましょう。

議論のポイント
1. 幼児期と思春期における新しい人物へのアタッチメントを築くことの違いについて考えてみましょう。
2. ティーンエイジャーが更なる痛みや傷つきから自分を守ろうとする心理過程について話し合ってみましょう。里親がこれを取り扱うための良い方法はあるでしょうか？
3. 過去と現在の自分のアタッチメントについて考え、それが自分の人間関係や他者への期待にどのような影響を与えているかを考えてみましょう。

05 効果的な里親養育 -STAGE フレームワーク

ティーンエイジャーと里親の関係がどんなに不安定で困難なものであっても、里親の役割は持続的で思いやりのある関係を築くことです。若者達のニーズを理解することで、ティーンエイジャーの時期に効果的な里親養育とは何かについて考えることができます。STAGE フレームワークとは、このような状況で役立つものです。STAGE フレームワークの「STAGE」のそれぞれの頭文字は、全てのティーンエイジャーにとって、大人との関係を築く上で、重要なことを示しています。

１文字目の「S」は、「significance・重要性」を表しています。ティーンエイジャーが協力を拒否したり、黙っていたり、あるいは失礼で言い合いになりやすい場合、大人が重要な役割を担っていることは想像し難いものです。しかし、調査によると、ティーンエイジャーの時期も子ども時代と同じように大人が重要であることがわかっています。若者は友達や仲間を好むように見えるため、大人は自分の影響力がほとんどないと感じることがよくあります。
しかし、その逆です。思いやりのある安定した大人との関係がなければ、ティーンエイジャーが大人への移行を成功させることは非常に困難です。

2 文字目の「T」は、「two-way communication・双方向のコミュニケーション」を意味しています。若者達は、大人とのコミュニケーションは質問されるか、言われるかのどちらかだとよく言います。これは、一方通行のコミュニケーションです。メッセージが、大人から若者へ送られるのです。しかし、良いコミュニケーションには双方向のプロセスが必要なことを私達は知っています。全てのティーンエイジャーは、自分に耳を傾けてもらいたい、自分の話を聴いてもらいたいと思っています。大人と若者の間の良好なコミュニケーションには、話すことと同じくらい聴くことが重要です。

３文字目の「A」は、「authority・権限」です。これは、ティーンエイジャーの時期に大人がどのように権限を行使するかという問いを提起します。ここで強調したいのは、思春期の子への大人の権限は、子ども時代に大人が行使してきた権限と同じ原理に基づくはずはないということです。この点については、次の２つのセクションで詳しく説明します。思春期の子への大人の権限は、権力や力、罰に基づくものであってはなりません。大人には若者の安全を守る責任がありますが、思春期の子への大人の権限は、尊敬と良好なコミュニケーションに基づいていなければなりません。ルールは押し付けるのではなく、話し合いの交渉で決めた方がより受け入れられます。ルールは構造が必要ですが、それは筋の通ったものであり、個々の若者の年齢と状況を考慮に入れる必要があります。

次の文字の「G」は 「generation gap・ジェネレーションギャップ」です。大人は、ティーンエイジャーの行動を判断するのが早すぎることがあります。このような判断は、今のティーンエイジャーの経験ではなく、過去の世代の経験に基づいて判断されがちです。ソーシャルメディアの登場、性行為の違い、価値観の変化等、現代の子どもの成長は大きく異なります。大人は、過去の世代の考え方に基づいて判断しないように注意しなければなりません。

STAGE の最後の文字は「E」で、「emotion・感情」を表しています。ティーンエイジャーのうちは、感情のコントロールが非常に難しい可能性があることを覚えておくと良いでしょう。ホルモンバランスが乱れ、脳自体が成熟して感情をうまくコントロールできるようになるまでには時間がかかります。更に、過去の苦痛やトラウマは、若者にとって役に立たず、破壊的でさえあるかもしれない強い感情を与えることが調査で明らかになっています。ですが、ティーンエイジャーは、周囲の大人に強い感情を呼び起こす力があります。大人は、もちろん怒りや悔しさも経験しますが、それらは悲しみや苦痛、そして物事がうまくいかないときの恥の感情さえも含まれるのかもしれません。里親は、自分の感情を認識して取り扱っていくことを学ぶため、支援を受けることが不可欠です。そうして初めて、若者が自分の気持ちを扱いコントロールする良い方法を持てるよう、大人が手助けすることができるのです。

重要なヒント

「STAGE」フレームワークを示しました。「STAGE」フレームワークを使うことによって、ティーンエイジャーと関係を築く上で、重要なことを覚えておくことができるでしょう。

この時期、若者は少なくとも一人の重要な大人を必要とします。これは里親ではなく別の人であるかもしれません。

良いコミュニケーションには、話すことと同様に、聴くことが求められます。

若者が安全だと感じるためには、構造と境界線が不可欠です。ルールや罰を用いるのではなく、ポジティブなこと（例えば、尊重すること）に焦点を当てて、これを達成していきましょう。

ティーンエイジャーは自分の感情を扱うことが難しく、そのことがしばしば大人の感情に影響を及ぼします。

議論のポイント

1. STAGE フレームワークの考え方は、あなたの里親養育に役立つと思いますか？あなたの養育に関連づけるために、この内容に追加したいものはありますか？

2. 思春期を一つの段階と考えることは役に立つでしょうか？それとも、年齢相応の行動であるかに注意を払いながら、それぞれの若者を自分の道を歩む個人として、ただ見ていくことが一番良いのでしょうか？

06 関係を築いていくこと

アタッチメントとSTAGEフレームワークの内容を合わせて検討することで、新しく里親家庭に迎えられた若者との関係を築いていくことに何が必要になってくるかについて考えることができます。最初に会ったときから、里親は若者の心の状態や態度を何らかの基準で測ろうとするでしょう。ですが、これは憤りと不信を反映している可能性があります。最初の出会いは、措置にあたってのミーティングになることが多く、その際は他の専門家が同席していることでしょう。里親が取り組むべきことは、若者にとって非常に困難な時期に、新しい関係を歓迎し、熱意を持って迎え入れるというメッセージを伝えることなのです。

若者の感情状態に関わる重要なことは、これから自分が加わろうとしている家族の種類、家に住んでいる人達、里親の態度等に対する不安や不確実性です。そのため、里親が行うべき最初の仕事は、痛みを伴う感情を認めて表現する余地を残しながらも、若者を安心させる方法を見つけることです。

ある里親養育者の言葉です。
「子ども達に透明性を保ち、あなたが何をしているのかを子ども達に伝え、行っていることがチームワークであり、彼らの将来に関わることであり、彼らもその一部であることを理解してもらえれば、子ども達は安心することができます。」

コミュニケーションをすることで、このような安心感を若者に与えることができたら、次にやることは、家庭環境や家族がどのように動いて機能しているのか、家族の中での基本的なルールを説明することです。若者をよく知るためには、多くの場所と時間を確保する必要があります。若者が決めつけられていると感じないように、自分の時間の中で、自分の話をするよう促すのが良いでしょう。他のティーンエイジャーと同様に、自分の声を聴いてもらえると感じさせることができるほど、彼らは自分の安全を守るために設けられたルールや境界を受け入れる可能性が高くなります。

里親養育に関する調査によると、思春期の子どもと里親の間に良好な関係を築くために必要不可欠なことが１つあります。それは安全を感じることに関連することです。身体的安全、感情的安全、関係的安全という３つのタイプの安全性について、若者達自身が話をしてくれています。身体的安全は、適切な境界が設定されていることと関係があります。感情的安全は、気分や感情に関係なく受け入れられること、そして、自分自身が気分良くいられるよう手助けしてもらうことについてのものです。関係的安全とは、信頼に関することであり、里親がそばにいて、自分の味方であり、物事がばらばらになっても拾い上げてくれると信じることについてのものです。

里親養育を離れた若者は、少年司法に関するセミナーで、安全感について振り返り話していました。
「私は刑務所から出たくありませんでした。ドアが閉まったとき、私は満足し、暖かく、安全だと感じました。タバコとテレビと本があれば、12時間でも13時間でも大丈夫なのです…。」

重要なヒント

若者について知っていること全て、彼らが耐えてきた様々な経験、発達年齢、そして彼らのこれまでの社会的養護の経験が引き起こす可能性のある誘因、について、よく考えましょう。
反応的にならないように、よく考えて対応しましょう。
過去に傷ついたり、拒絶された経験は、若者があなたやあなたの家族、家庭環境にどのように適応するかに大きな影響を与えます。
あなたの家、そこにいる人達、そしてあなたの期待について若者にできるだけ多くの情報を伝えましょう。但し、ずっと話し続けることが、必ずしも最良のコミュニケーション方法ではないかもしれないので、色々なコミュニケーションの媒体を使用しましょう。
若者が新しい状況に適応するためには、安全だと感じられることが絶対に必要であることを忘れないでください。

議論のポイント

1. 家族の中で全ての若者を平等に扱いながら、個々のニーズを認識することは本当に難しいことです。このジレンマを解消する一番良い方法は何でしょうか？
2. 若者が家の中で安全に過ごせるようサポートする方法について、個々の若者の年齢やニーズの違いを考慮しながら話し合いましょう。
3. 守秘義務に違反したり、養育されてきた歴史を伝え過ぎることなく、あなたの実子達にどのように準備させ、サポートしていくのか、その方法について考えてみましょう。

07 構造と境界、ルールと罰則

全てのティーンエイジャーにとって、境界と構造が整っていることは、健全な青年期の発達に不可欠であることは広く認められています。しかし、挑戦的な行動が多い里親養育の状況では、そう簡単にはいきません。但し、やって良いこととダメなことの明確な境界線がなければ、若者が安全であるとは感じられないことを私達は知っています。もちろん、彼らは身構えて、挑戦し、大人が設定した境界を拒否するためにできる限りのことをするでしょう。その中には、大人を試すためのものもあれば、不安やストレスによるものもあり、また学習した行動を反映しているものもあります。理由が何であれ、若者が自分の行動をうまく扱えるようになるには、構造が必要です。

ある若者対象のワーカーは、自分の経験をこう語っています。「ルールや制限を持たない子は問題があると思います。ルールや制限がないことは、彼らにとって怖いことなのです。子ども達は、自分には境界や従うべき指針がないことにひどく不安を感じ、そのことは大きな恐怖となります。そして、彼らは境界やガイドラインを望んでいないように見えるかもしれませんが、それを求めて泣いていて、それが用意されると安心することが多いのです。」

里親養育の状況では、やって良いこととダメなことの境界をどのように設定すれば良いのでしょうか？４つの有用なガイドラインがあります。第一に、境界は簡単に理解できるものでなければなりませんし、若者の利益のため、あるいは家庭全体の利益のためのものでなければなりません。第二に、可能であれば、境界は押し付けるのではなく、合意してもらうのが良いでしょう。第三に、年齢に見合った内容である必要があります。ティーンエイジャーは、自分が子どものように扱われていると感じることを嫌います。最後に、大人はできる限り一貫性を保つよう努める必要があります。境界が破られたとしても、境界を保ちましょう。なぜ境界が存在するのか、若者が合意を破ったとしても、その構造は維持されることを説明していくことが不可欠です。

これは罰の問題につながります。実親家族では使われる罰としてのいくつかの選択肢は、里親養育の場合、使うことができないため、適切な罰を設定することが特に困難です。罰がなければ、若者は自分の行動の結果について学ぶことができないため、罰は重要となります。

また、罰は、褒めることと罰することのバランスの中で考える必要があります。若者が受け取る報酬、認識、支持が多ければ多いほど、物事がうまくいかないときに罰を課すことが容易になります。調査によると、若者が常に否定的なメッセージを受け取っていると感じれば感じるほど、罰が意味を持つ可能性は低くなります。最後に、罰は、個人としての若者に適切なものを選ぶ必要があります。人はそれぞれ違うので、里親は個々の若者とその興味や関心に適した罰を慎重に選択する必要があります。

重要なヒント
ルールと、やって良いこととダメなことの境界が、子どもにとって簡単に理解できることを確認してください。
話し合いや交渉でどうしていくかを決めていくことは、押し付けよりも良いことです。
若者に自分の罰を提案してもらいましょう。
ルールや境界は、子どもの発達的、年代、状況に応じて適切でなければなりません。
罰よりも褒めることを心がけましょう。
ポジティブな点に焦点を当てると、ネガティブなことは重要ではなくなることがあります。

議論のポイント
1. 子どもの委託がうまくいくためには、ルールと境界が不可欠です。あなたの家庭で、これらをしっかりと確保ためするには、どのような方法が最良だと思いますか？
2. 褒めることと罰のバランスは、大人と若者の関係において繰り返されるテーマです。調査によると、理想的には罰の２倍以上の賞賛を与える必要があると言われています。里親養育の状況でこれを実現するために何ができるでしょうか？
3. ストレングスに基づいた言葉（例：「～に抵抗する」ではなく「～しないことを選ぶ」）を使うことで、対立を避けることができます。一緒に取り組んでいる人に、話の筋立ての見直しを手伝ってもらうと、「言葉遣いに気をつける」ことができるようになります。

08 危険を冒すこと

危険を冒すことが、全てのティーンエイジャーにとって思春期の行動の正常な部分であることは、よく議論されることです。このような考えは、ティーンエイジャーに関連する否定的なステレオタイプと容易に結びつきます。言い換えれば、若者であるというだけでトラブルを起こす可能性が高いということです。大人がティーンエイジャーのグループの脇を通り過ぎるよりは、道路を横切ろうとする状況を若者は説明してくれています。ある若者は以下のように述べています。
「大人は年齢で判断し、人として判断することはしない。」

ティーンエイジャーが危険を冒すものという考え方は、脳に関する調査の結果、ここ数年で一層注目されるようになりました。その結果は、感覚、覚醒、報酬に関連する脳の領域が、思考、計画、問題解決を司る領域よりも早く成熟する可能性があることを示しています。このことから、ティーンエイジャーは、先のことを考えたり、自分の行動の結果を前もって理解したりすることが難しいため、危険を冒すのだと結論づけることができます。

もちろん、これは過度に単純化された説明です。脳の成熟は、人によって様々で異なります。また、行動は脳からの影響だけでなく、環境からの影響も受けます。脳は行動を決定する一つの要因に過ぎず、一部のティーンエイジャーが他のティーンエイジャーよりも危険を冒していることは明らかでしょう。

里親は、様々な種類の挑戦的な行動に対処する必要があります。その一部は、家庭環境での「行動化」や「蹴り飛ばす」、「自傷行為」といった行動の形で表れます。他の種類の行動は、夜遊び、失踪、飲酒、薬物使用、法律違反等、家庭外での危険な活動に関係している場合があります。里親にとっては、このような行動が青年期の一部としてどの程度予想されるのか、また、一人一人の若者の背景や発達上の問題がどの程度関係しているのかを認識することは、特に難しいことです。

里親がそのような行動に対処せずにすむ可能性は低いでしょう。しかし、危険な行動を減らしたり、その結果起こりうる被害を軽減するためにできることはたくさんあります。

第一に、大人の行動を促し、若者に年齢相応の責任を与えることができればできるほど、危険を冒すことを最小限に抑えることができます。第二に、危険を冒すことは、しばしば自尊心の低さと関連しています。もし里親が、若者の自尊心を高め、自己の価値を認識し、達成感を体験できるようにする方法を見つけることができれば、危険を冒すことは軽減される可能性があります。第三に、すでに述べたように、明確な境界と構造を設けることで、若者は安心感を得ることができ、やがて危険な行動をとる可能性を減らすことができます。最後に、危険な行動をした時に、何が起こるかを考えることが重要です。大人はどのように反応するでしょうか？大人が自分の感情をコントロールする方法を見つけ、落ち着いてサポートし続けることができれば、大きな助けとなります。里親養育を受けている若者は、批判を拒絶と解釈する可能性が非常に高いのです。若者がたとえ間違いを犯しても、大人がサポートし続けることを明確にすることができれば、将来の関係に大きな影響を与えることができる可能性があります。

重要なヒント
若者がたとえ間違いを犯したとしても、サポートし続けましょう。
多少、危険なことをするのは、成長していくことの一部です。若い頃に見られる実験的に行うことと、過度な危険を伴うことを区別するようにしてください。
自尊心の低さは、危険な行動を取ることの大きな要因です。若者が自尊心を高められるよう試み、手助けをしましょう。
自立を促し、責任ある行動を取る機会を与える方法を見つけることは、いつだって良いことです。
うまくいかなかった時に、どう対応するかを考えておきましょう。拒絶していると受け取られるような対応は、できるだけ避けてください。

議論のポイント
1. 危険を冒す行動には様々な種類があります。社会的養護のもとで暮らす若者が、他のティーンエイジャーよりも、危険を冒す可能性が高い理由を探りましょう。
2. 若者が危険を冒すことに対する里親の対応は、結果と成果に大きな違いをもたらします。里親はこのような行動にどのように対応するべきでしょうか？

09 里親養育におけるセクシャリティと性的健康

性的発達は、全ての 10 代の若者にとって重要なことです。これが里親に養育されている状況であればなおさらです。その理由の 1 つに、里親養育を受ける若者が、性的虐待や性的搾取、その他の不適切な性的体験を経験している可能性があることが挙げられます。但し、このことに加え、トラウマやアタッチメントの不全、発達の遅れ等の結果、いわゆる正常な性的発達と呼ばれるものが阻害されることもあります。

これは里親にとって大きな課題となります。まず第一に、里親養育を受ける若者は、性と人間関係についての良い教育を特に必要としています。これは学校環境では提供されていない可能性があるため、里親には特別な責任があります。学校で情報が提供されていたとしても、若者がそれを理解し、安全な環境で彼らが心配している問題について質問できるようにするために、里親が支援をしていく必要があるかもしれません。更に、社会的養護のもとで暮らす若者には、性的健康に関してアクセス可能なセクシャルヘルスサービスが必要になることになるでしょう。里親は、これらが適切な方法で提供されていることを確認する必要があります。

里親養育を受ける若者の多くは、自分の性的アイデンティティや性的指向について確信が持てず、または混乱し、中には自分の性別が不安や苦痛の原因になっている人もいるでしょう。若者との会話の中で決めつけたり、見下したりしないことが大切です。若者が話したり、リスクを回避したり、助けを求めたり、情報に基づいて決断していくのを支援することがあなたの役割であり、あなたの個人的な見解とその役割は関係のないものです。

性的関係における同意、いじめや仲間からの圧力、性的関係に関する法的枠組み等の話題は全て、若者が適切な指導を必要とするものとして認識される必要があります。性的な健康さについて話し合う際の実親家族の役割は、措置開始時から明確にしておく必要があるかもしれません。実親家族は、若者に何を話すかについて強い考えを持っている可能性があり、対立が生じるおそれがあります。

多くのティーンエイジャーは、社会的養護のケアを受ける以前に、健全な性的関係を築くことをより困難にする経験をしています。若者が不適切な、あるいは安全でないセックスをしている場合、里親にとっては重大な問題となります。里親との安全で信頼できる関係は、ティーンエイジャーを保護し、日々の生活の中で彼らのレジリエンスを構築するための強力なツールとなり得ます。里親は、若者のセクシュアリティに関するリスクを認識し、そのリスクを軽減する方法を学ぶためのトレーニングが必要です。

性的搾取や性的虐待を受けた若者が保護された場合、彼らに「被害者」や「リスクを抱えている」というレッテルを貼ることは非常に簡単なことです。しかし、これは、こうした経験に対する若者の反応や、こうした影響を管理する能力の違いを無視しているため、役に立ちません。私達は、若者がこの問題にもたらす様々な視点を認識する必要があります。私達は、若者を資質と能力を持った個人として見ることの重要性を強調する必要があります。個人の強みを生かすことは、リスクを軽減するための最も有効な方法です。

性的健康は、里親が管理する上で、最も難しい分野の一つであると言われています。一部の人々は、問題を抱えたティーンエイジャーとセックスについて話し合う準備ができておらず、そのようなデリケートな問題を適切に扱える背景と経験がないと感じています。里親がこのような問題に効果的に取り組むためには、トレーニング、適切なリソースの提供、ソーシャルワーカーによるスーパーヴァイズ、ピアサポートが不可欠であることは言うまでもありません。

重要なヒント

里親養育を受ける若者に、性別とセクシュアリティに関する情報をできるだけ多く提供するのにアクセスしやすい方法を見つけましょう。例えば、一緒にテレビ番組を見て、挙げられている内容について話し合う等のようなことです。

社会的養護のもとで暮らす若者の性に関連する不安や不確かさを心にとめておきましょう。

性別についてオープンに話し合ってみましょう。–それは自然なプロセスです。性別が、虐待と関連したこと、もしくは、当惑的なこととしてみなされる場合、行動に影響を与えることとなります

里親は、若者を性的リスクから守るために重要な役割を担っています。

大人が若者の性的アイデンティティや性的指向に敏感であることは重要です。

子どもへの性的搾取（CSE）についての知識を持ち、若者が危険にさらされている可能性を示す兆候を認識できるよう学んでいきましょう。

議論のポイント

1. 社会的養護のもとで暮らす若者に、どのように性別と人との関係性について教育を行うことが最善でしょうか？
2. 社会的養護のもとで暮らす若者の間では、性的な行動化や性的リスクを冒すことは珍しいことではありません。これは、里親に大きな問題として課されます。若者がそのような行動を管理したり、リスクを回避したり、そのような状況で自分自身を守るのを助けるために、里親ができることはありますか？
3. 里親は、若者がセックスを試みようとするのを防ぐ必要があると感じるかもしれません。それはなぜでしょうか？どのような支援が考えられるでしょうか？

10 期待と願望

若者が措置されたとき、予測通りに事が運ぶことはほとんどありません。

ある里親が、以下のように言い、このことをうまく表現していました。
「決して思った通りにはならないものです！」

言い換えれば、いくら準備しても、事前にどれだけの情報を得ても、実際の体験には多くの驚きや予想外の展開が待っていることはほぼ間違いありません。

もう１つの重要なことは、里親が期待することと、措置され一緒に住むことになった若者が期待することの違いです。里親養育を受けるティーンエイジャーは、家庭生活を十分に経験できなかったので、家庭生活を経験する必要があると、多くの里親は考えています。言い換えれば、その里親は、思いやりのある家庭環境、おいしい食事、暖かいベッド、励ましの言葉等、自分が提供できるものが、若者の人生を好転させる答えになると期待しています。これらの構成要素は、一部の人、特に幼い子ども達にとっては重要ですが、問題やトラウマを抱えたティーンエイジャー達が家族生活からストレングスが得られるようになるには、何年もかかるかもしれません。

過去に大人に失望させられたり、虐待を受けたりした若者は、新しい大人との基本的な信頼関係を築くまでには長い時間がかかります。実際、多くのティーンエイジャー達は、特に過去の拒絶による痛みが彼らの内面生活の重要な特徴であり続けている場合、信頼関係を築くことはほとんど不可能だと感じています。

ある若者はこう言いました。
「自分が壊される前に、人との関係を壊す方がましです。」

里親は、自分達の期待を適切に扱っていけるようにすることが不可欠です。信頼関係の構築は時間のかかるプロセスであり、家庭生活は若者の経験とはかけ離れているため、措置された当初は意味をなさないかもしれません。もちろん、家庭生活は、若者達と一緒になんであれ努力して進める上で、しっかりとした素地が形成されていくでしょう。ただし、更に前進するには、更に多くのことが必要になる場合があります。

セミナーでは、社会的養護のもとで暮らす若者が何を達成できるかという大人の期待と、彼らの願望や能力との間にギャップがあることを懸念する声が多く聞かれました。社会的養護のもとで暮らす若者は、教師や他の専門家からの低い期待が足かせとなっていることが非常に多いのです。

里親の役割は、擁護し、応援する人であるとともに、里親養育を受けている若者の能力を信じる人となることです。若者の願望を真剣に受け止め、その願望が実現できるように努力する必要があります。
あるセミナーでケアリーバーがはっきりと述べていました。
「ここにいない人は、薬物の過剰摂取で死んでいく人達です。彼らは引き上げてもらう必要があります。私達は彼らの面倒を見なければならないのです。皆さんが彼らを引き上げて、何でもできるよ、と言ってくれる人であることを願っています。」

社会的養護のもとで暮らす若者の願望を育む方法の一つとして、ストレングス・ベースド・アプローチがあります。これは、問題や困難だけに集中するのではなく、個人のストレングスや力に注目することを意味します。大人が問題にばかり気を取られて、若者のことを全体的に見ていないことがよくあります。このようにして、若者の興味、動機づけ、資質、能力が片隅に追いやられてしまうのです。ストレングス・ベースド・アプローチを用いるには、視点の転換が必要です。ストレングスを探して、それをどう生かすか考えましょう。それらを前面に出せば、問題は目立たなくなります。

重要なヒント

あなたが抱いている期待には注意しましょう。ほとんどの場合、物事は、期待と異なる結果になります。
里親養育を受けている若者の多くは、「普通の」家庭生活に対して非常に複雑な感情を抱いています。このことを理解できるようになるには、大人になるまで長い時間がかかることがよくあります。
ある里親が「若い人の才能を曇らせないで」と言っていました。そのように、若者達には願いを持つように励ましましょう。
里親は擁護する人として重要な役割を果たします。

議論のポイント

1. 社会的養護のもとで暮らす若者の教育は、例えば頻繁な転校等、様々な要因によって成果を出すことが妨げられます。若者が教育を受け、最善の成果を出すために、里親はどのようなことをすることが最善の支援となるでしょうか？
2. 里親養育を受けているティーンエイジャーのために、家庭、学校、ソーシャルワークのチームはどのように協力することができるでしょうか？
3. ストレングス・ベースド・アプローチは、あなたが養育を行っている若者との日々の関係にどのような意味をもたらすでしょうか？あなたは、コミュニケーションにおいてストレングスに焦点を当てていますか？

11 コーディネーション（調整すること） － 若者のために最善を尽くす

里親養育シチュエーションで最も難しい点の１つは、２つの人間関係が存在していることです。一方では、里親は法的に定められたプロセスの中で働いています。他方では、傷つきやすく、不安を抱えた若者との関係を築いています。これは、里親と家族全体にかなりの負担をかけます。里親は、「うまくやらなければならない」という大きなプレッシャーを感じていると報告しています。しかし、状況は不安定で変化しやすいことが多く、「うまくいく」ということが実際に何を意味するのか、必ずしも明確ではありません。

適切なコーディネート（全体の調整）は、プロセスの中心にありますが、今日の環境では、ソーシャルワークの専門職の中で絶え間なく方針の転換がなされます。里親は、地方自治体のソーシャルワーカーと彼らの仕事を俯瞰するスーパーヴァイズ・ソーシャルワーカーとの間で、常に変化し続ける状況を管理しなければならないと報告しています。そのため、コーディネートが非常に難しいのです。

このプロセスは、措置への同意から始まります。里親は契約書に署名するよう求められますが、その際、背景となる情報はほとんどなく、更に詳細を確認する時間もほとんどない場合もあります。経験豊富な里親のアドバイスは、この段階で、できる限り時間をかけ、若者や彼らがこれまで体験してきたことについてできるだけ多くのことを知るためしつこく尋ね、確認することです。実親家族の情報や、これまでの措置による滞在先に関する情報は、この時には非常に貴重なことです。

このことは「陰口を叩くこと」ではなく、新しい場所での生活がどのようになることを望んでいるのか、若者に関わり合いをもたせる重要な段階でもあります。また、このプロセスで委任された権限について同意を得ることが必要となってきます。

措置の過程で、様々な子どもに関するミーティングに参加し、計画を立てることになります。これらには、今後の見通しと支援計画、社会的養護児童としての振り返り、生徒としての教育プラン等が含まれます。用語は、当局ごと、国ごとに異なる場合があります。このような計画の策定や進捗状況をモニターするには、里親が大きな役割を果たすことが不可欠です。ところが、専門家同士の適切な連携とソーシャルワーカーの間にある程度の安定性がなければ、これらの課題は問題を含んだものになります。社会的養護のもとで暮らす若者に、里親養育が功を奏するには、地方自治体がソーシャルワーカーと里親の間に良好で効果的なコーディネートシステムを導入する必要があります。

セミナーで、若者が説明していました。「社会的養護のもとで暮らす若者は、このようなミーティングで、６人か８人の専門家と一緒にテーブルに座り、『私はここで何をしているのだろう？』と思うことがあります。そして、物事は全てその専門家の周りで進んでいきます。そのことこそ、私達が埋めることができるギャップです。」

最後に、私達のセミナーシリーズでは、多くの議論で里親のための優れたトレーニングの必要性が浮き彫りにされています。トレーニングと継続的なサポートがなければ、養育者が里親養育を受ける弱い立場の若者に、今日必要としているレベルの支援を提供することはほとんど不可能です。特に、専門的な措置を担当する里親には、特別なトレーニングが必須であると思われます。これがなければ、里親がそのような状況で問題を抱え、多くのことが要求されるティーンエイジャーに必要な環境を提供することはできません。

重要なヒント

委託にあたってのミーティングでは、できるだけ多くの情報を求めましょう。情報に欠落がある場合は、調べ直し、伝えてもらうことを依頼して下さい。
あなたにどのような決定権があるのかを明らかにしましょう。
ミーティングで若者の声を聞くことができるように、できる限りのことをしましょう。
法定機関からの圧力に耐えられるよう努めましょう。
適切なトレーニングとサポートを求め、積極的かつ粘り強く行動しましょう。
あなたは子どもや若者のために変えていく「代理人」であることを忘れないでください。あなたは彼らと一緒に暮らしているのですから、あなたの声を活かしてください。

議論のポイント

1. 参加したくない若者を計画ミーティングに参加させるにはどうすれば良いでしょうか。参加したくない場合、彼らの意見をどのように示していくのが良いでしょうか。
2. 里親は、様々なサービスの活動、導入および要求することのコーディネート（調整）にどのような影響を与えることができるでしょうか？

12 移り住むこと

全ての里親は、若者が自立したり、別に措置される場所に移ったりする状況に対処することが求められます。この経験は、養育される側だけでなく、養育する側の家族にも強い感情を生じさせます。

ある措置から別の措置される場所への移動は、決して単純なものではありません。ほとんどの場合、このような状況が生じるのは、若者の行動があまりにも挑戦的で困難なものになったためか、あるいは個々の若者が特定の里親と一緒に暮らすことができないと判断したためです。いずれにしても、喪失感、悲しみ、罪悪感、怒り等の感情がそのような状況によって生じ、これらを扱っていくことは難しいことです。最良の環境では、里親はこれらの時期にサポートが与えられます。感情をそのまま悪い状態にしておくと、里親が次に委託される若者とうまくやっていくことがかなり難しくなります。移り住むことへの一環として、その若者がどこから来たのか、一緒に住んでいた人、一緒にしたこと、そして未来への願望を形にした、写真集や思い出の本を持つことが特に若者のアイデンティティにとって、役立つ場合があります。

また、自立への移行は難しいプロセスになる可能性があります。里親養育を離れつつある人が利用できるリソースはとても少ないです。更に、18 歳、あるいは 21 歳で人間関係が簡単に終わると考えるのは、明らかに非現実的です。ある里親は以下のように述べています。移行は直線的なものではありません。つまり、里親養育から離れる過程は必ずしも真っ直ぐに進むとは限りません。現在、英国のほとんどの家庭では、家を出るのに何年もかかります。若者達は、大学に行ったり、しばらく家に帰ってきたり、どこかに住んだり、状況の変化に応じてまた戻ってきたりと、ヨーヨーのように行ったり来たりしています。このように、少しずつ自立に向けて進んでいく機会が、里親養育を受ける人達に開かれていないのは残念なことです。

自立に向かって移り住むことは、大きな転換期と考えなければなりません。移行については、前述の思春期の発達の項でも触れました。全ての若者は、移行期に直面したときに助けを必要とします。例えば、小学校から中学校への移行は、かなりの準備とサポートが必要であると考えられています。ですから、里親からの自立に向けた移行もそうであるべきです。

里親は、このプロセスを容易にするために多くのことを行うことができます。ここで、レジリエンスを持つことについて触れてもいいかもしれません。レジリエンス（Resilience）とは、逆境に耐え、挫折を克服する力のことです。レジリエンスは、文字通り、跳ね返すという意味です。個人の内的資質、どのくらい周囲からサポートを得られるか、そして生活を送っているより広いコミュニティが本質的にどのようなものかの結果として、レジリエンスは育くまれるものです。

里親は、若者が直面する可能性のある課題に取り組み、自立の課題に対応するための資質やスキルを身につけられるように手伝うことにより、若者の自立への準備を支援することができます。若者の自尊心が高まれば高まるほど、またレジリエンスが高まれば高まるほど、自立への移行が成功する可能性が高くなります。

重要なヒント

若者が別の場所に措置され、移らなければならないときは、あなたの気持ちを他の人に話すようにしてください。それらの感情を悪いままにしないでください。

若者が自立のため移り住む前には、できるだけ多くの準備をしましょう。

あなたが一緒に暮らしている若者と、レジリエンスの意味を考えてみましょう。彼らがレジリエンスのある考えができるよう促し、自分達で生活するという課題に対処するのに何が役立つかを考えてみましょう。

議論のポイント

1. 孤独は、里親養育を離れた若者が経験する最も一般的なものの一つです。若者が自立するために、また、彼らが経験するかもしれない孤独のために、どのような準備ができるでしょうか？
2. 本章で扱った文脈において、レジリエンスとは何を意味しているのでしょうか。また、あなたの養育を受けている傷つきやすい若者のレジリエンスをどのように促進することができるでしょうか。
3. なぜ私達は、里親養育から離れる若者が、成人した大人が通常なら 10 年以上も直面しないような状況に対処することを期待してしまうでのしょうか？

参考資料

Bond, H. (2008) **Ten Top Tips for Preparing Care Leavers** London: BAAF
Coleman, J. (2014) **Why Won't My Teenager Talk to Me?** London: Routledge
Farmer, E., Moyers, S. and Lipscombe, J. (2004) **Fostering adolescents** London: Jessica Kingsley Publishers
Gilligan, R. (2009) **Promoting Resilience** London: BAAF
Hayman, S. and Coleman, J. (2016) Parents and digital technology London: Routledge
Pallett, C. et al. (2015) **Managing Difficult Behaviour** London: CoramBAAF
Schofield, G. and Beek, M. (2014) **Promoting Attachment and Resilience** London: BAAF
Timpson, J. (2015) **A guide to attachment and how it can affect people's lives** Manchester: Timpson Ltd
Wade, J., Sirriyeh, A., Kohli, R. & Simmonds, J. (2012) **Fostering unaccompa nied asylum-seeking young people** London: BAAF

最後に
このハンドブックでは、ティーンエイジャーを養育する里親とその支援をする人達が直面する重要な問題を取り上げました。この内容は、若者、里親、専門家、政策立案者、研究者が主な課題について議論し、効果的な方略を明らかにしたセミナーシリーズから生まれたものです。このハンドブックでは、全体を通して、行われた調査のエビデンスに基づいて説明しています。このハンドブックが、困難を引き受け、必要とされている役割を担う方々の参考になることを願っています。

セミナーで使用した資料は、以下のサイトでご覧いただけます。
http://reescentre.education.ox.ac.uk/research/ teenagers-in-foster-

「里親養育の中心にいるあなたは、里親として、あなたに預けられた若者とともに旅をし、感覚とプロフェッショナリズムの両方を携え、進む道を導く、日常的に過ごしながらも里子にとってはこれまでに出会ったことのない人です。里親養育を受けるようになった理由が何であれ、措置されてあなたの所に来た若者は、多くの場合、発達や行動に影響を与える悲しく、トラウマとなる、困難な経験をしています。若者はそれぞれ個性があり、あなたの役割は彼らが人生において生産的に前に進めるよう手助けすることです。若者の実親家族だけでなく、あなた自身の実親家族も含めて、関係者全員が継続的に学ぶことの必要性について軽視しないでください。温かく励まし、毅然とした態度で公正に対応することで、若者が人生と人生が与えてくれるもの全てを掴む力を与えることができるのです。それは実りのある旅となります。」
Jane Vellacott - 里親

このハンドブックは、ESRC のセミナーシリーズ「Teenagers in Foster Care」（里親養育下のティーンエイジャー）から作成されたものです。全てのセミナーの資料は、Rees Centre for Research in Fostering and Education のウェブサイト
http://reescentre.education.ox.ac.uk/research/teenagers-in-foster-care/に掲載されています。

早稲田大学研究院総合研究機構
社会的養育研究所
監訳チーム
担当：引土 達雄（国立研究開発法人　国立成育医療研究センター）
2022（令和 4）年 2 月

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION